

# 安倍政治が目指すもの

「インサイドライン」編集長  
歳川隆雄

- \* 厳しくなったメルケル首相発言
- \* 70年談話までの二つのハードル
- \* 山県有朋の元老政治を学ぶ
- \* 幻に終わった首相のメッセージ
- \* これまでの安倍晋三とは違う
- \* 憲法改正への強いこだわり
- \* 注目の国家安全保障局長人事
- \* 先を見通すインテリジェンスの欠如
- \* 経済政策の司令塔は存在しない？



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は皆さんおなじみの歳川先生に来ていただきました。安倍政権の支持率が若干低下しているわけですが、政権の内情、今後について、メディアに出ないお話を聞けると思います。じっくり聞いていただきたいと思います。それは歳川さん、よろしくお願いいたします。（拍手）

歳川 毎年お声がけを受けるのは6月なんです。が、今まだ3月。3カ月前倒しというのは、事務局の方が講師人選に悩んで、ほかに人がいないので私に来たのか。（笑）あるいは、私はそう信じていますが、おまえの話をいつもより3カ月前早く聞きたいということでお声がけをされていたのか。（拍手）後者と信じて話を

いたします。

厳しくなったメルケル首相発言

さて、私が直近の安倍晋三内閣、あるいは安倍総理大臣に関することの中で大きく関心を向けさせられたのは、実はドイツのメルケル首相の日本訪問におけるメルケルさんの講演、あるいは総理との首脳会談です。どうということかと言うと、メルケルさんはなかなか優れたものなのです。

当初、首相官邸は、メルケルさんが来日されて、安倍総理との日独首脳会談の前に講演を入れるということをもちろん情報として察知していた。まず、その講演そのものですが、いくつかの主要新聞社がドイツ側に自分のところの主